

## アメリカ便り（第4報）

御申し越の冷凍精液の問題ですが、MCの大学で調査しましたが、時間の関係でゆっくり聞けなくて残念でしたが、現在米国では殆んど冷凍精液を使っており、精液はアメリカブリーターズアソシエーションで配布している様です。容器は牛乳の輸送缶を大きくした（2斗缶位です）様な厚くステンレスの容器でこの中に液体窒素を入れて500本から700本位保有しています。容器内の湿度は-50°Cで保存しています。これまでに下げる方法はアルコールとドライアイスを使っております。容器の発売元は FROZEN, SEMEN PRODUCTS INC, RC, NO. 1 BREINIGSVILLE, PENNA, U.S.A と言うことでした。カタログでも取って頂くと早いと思います。1つの容器が542ドルです。人工受精師この容器を自動車に積込んで持ち歩いて、必要なところに温度をもどして使っているそうです。小型で非常に便利な様に思いましたが、問題は液体窒素が得られるかどうかでこちらでは楽に入手出来ますのでこの様に発達したのだと思います。ドライアイスも充分ありますのでこの点では楽なのじゃないかと思います。

先週は北アロライナのアパラチア山脈地帯の農家を見て廻りました。英国系人が多いので山地の利用は北欧式と言いますか、英國式と言いますか、とにかくニュージーランドで見た様な山の上まで利用した酪農をやっています。ただ違うところはストリップカルピングをやっていることで、これは土壤保全の上から言って是非取り入れたい耕法であると思います。御承知の様に急傾斜地の耕作に帶状に草地を入れて何段にも分けて耕作する方法で、等高線に添つて行うこの方式はこれから山地酪農に取り入れたいものであると思いました。この地区は小農が多く、土地の利用方法もよく、非常に参考になりました。電化が進むにつれ、各農家が搾乳機械を使い貯乳タンクを置いて完全に搾乳した乳を冷却して2日に一度出荷しています。こうなれば2等乳の問題もなくなり、乳価も高

くなるわけです。酪農問題になると眼の色が変るとひやかされています。専ら畜産関係を中心にやっていますがどうも雑な面が多くあまり参考にならないのには閉口しています。

アパラチア山脈のスマーキーマンテン国立公園を横断して、インディアン部落や初期開拓者の住宅なども見てきました。全く視察旅行です。農家も数多く見ましたが、地区により特徴があるので面白く見ています。何処の地区へ行ってもブロイラーが盛んになって来ていますことは注目する必要がある様に思います。一行中にその方の専門家もありますが、面白い問題だと言っています。

今週からノックスビルに入りT・V・A関係で説明を聞いておりますが、日本で聞いたほど面白いものではありません。どうもT・V・Aももう過去のものではないかと言った様な感じを受けました。最初は相当効果があった様ですが、現在では発電事業と肥料関係の仕事で、水利関係は大したことありません。土壤保全関係の仕事はやっていますが、これも殆んど終ったと言う感じです。明日からテネシー大学に行きます。ここでこの地方の農業問題について講義を聞くことになっていますが、予定はまだ判りません。今週はここで終り、週末にジョージア州のアテネスに行きます。来週はジョージア州で過し、水田稻作について視察する予定です。これからニューオルリンズに入り、バトンルージュに行きます。

日程が確定しました。10月17日サンフランシスコで解散して、午前9時UAでハワイに飛び、18日夜中に出発、20日の正午羽田着に決りました。